



**COOP
SAPPORO
CSR REPORT
2017**

コープさっぽろ
CSRレポート2017

編集方針

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」の発行を始めました。2007年からはコープさっぽろの社会的責任(Corporate Social Responsibility: CSR)の視点から活動を報告する「CSRレポート」にあらため、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示に努めてきました。

コープさっぽろのCSR活動は、「事業」と「組合員活動」の両面から成り立っています。報告にあたっては、コープさっぽろの基本姿勢に則して推進している日々の活動の方針や内容を、その進捗状況とともに報告することを基本としています。持続可能な社会の実現に向けて、コープさっぽろが果たすべき役割は何か、そしてどのような取組を行っているのか、活動の一部ではありますが皆さまにお伝えできれば幸いです。

●報告対象期間

2016年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2017年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2017年3月20日現在のものです。

●ホームページでの情報公開について

コープさっぽろでは、情報の開示にあたり、本レポートのほかにホームページを活用しています。ホームページには本レポートの記載内容に加え、2016年度事業報告、損益状況などのより詳細な情報を掲載しています。(当該情報に関するホームページの公開は、2017年6月を予定しています)

CSRレポート掲載URL

<https://www.sapporo.coop/>

●発行年月および次回発行予定

2017年5月発行。
次回は2018年5月の発行を予定しています。

CSRレポートに関するお問合せ先

生活協同組合
コープさっぽろ 秘書室

〒063-8501
札幌市西区発寒11条5丁目10-1
TEL. 011-671-5602

CONTENTS

コープさっぽろの事業と活動 01

特集

北海道の
コープさっぽろ 02

2016年度活動報告

人と人をつなぐ事業の輪 08

人と食をつなぐ事業の輪 12

人と未来をつなぐ事業の輪 18

2016年度環境活動報告

環境理念と環境方針 23

環境活動トピックス 24

環境データ報告 28

コープさっぽろの組織概要

コープさっぽろの伝言(新理念体系) 29

基本情報 30

組合員動態 31

事業所数と形態 32

第三者意見 33

コープさっぽろの事業と活動

社会の問題を解決

コミュニティづくり

助け合い

- インフラから見守りへ進化「宅配ドック」(P8・9)
- 北竜町のスーパーマーケット運営協力(P9)
- 障がい者も買物しやすい店づくり(P9)
- 「認知症になりにくいまちづくり宣言」と「まる元」(P10・11)
- 高齢者出張相談所「ちょこっと茶屋」増設(P11)
- シニア割引導入(P9、11)



人と人をつなぐ事業

人と未来をつなぐ事業

人と食をつなぐ事業

北海道の豊かな食文化創造

食育(食べる・たいせつ)

食の安全・安心

- 地域の一番店を目指す「おいしいお店」(店舗事業)
- 高齢者等の健康を守る「配食サービス」(P12)
- 生活弱者対策「移動販売車」エリア拡大(P13)
- 品質の安全・安心にこだわった「なるほど安心商品」(P13)
- 魚売場で対面販売開始(P13)
- 大学・高校とコラボした弁当・惣菜を販売(P13)
- 中学生に「朝塾」開催(P13)
- 「食べる・たいせつフェスティバル」内容充実(P14)
- 魚のおろし方を学ぶ「魚の調理教室」(P15)
- 子どもの夢を広げる「おしごとキッズ」(P15)
- 農園で人気シェフの味「畑でレストラン」(P16)
- プロのシェフ招き料理教室(P17)
- 世界料理学会を応援(P17)
- 「エゾシカ肉」調理デモと勉強会(P17)

- 「フードバンク」設立(P18)
- 子育てを絵本で応援「えほんがトック」(P19)
- 返済不要奨学金で就学支援(P20)
- 地域を未来につなぐ雇用の取組(P21)
- 出資額に応じてポイント付与(P22)
- 「暮らしの火の用心協力隊」参加(P22)
- 平和スタディツアー(P22)
- 連続台風被災者支援(P22)
- ホッキョクグマ応援プロジェクト(P24)
- コープ未来の森づくり基金(P25)
- カーボン・オフセットの取組(P26)
- 絵本・おもちゃ回収(P27)



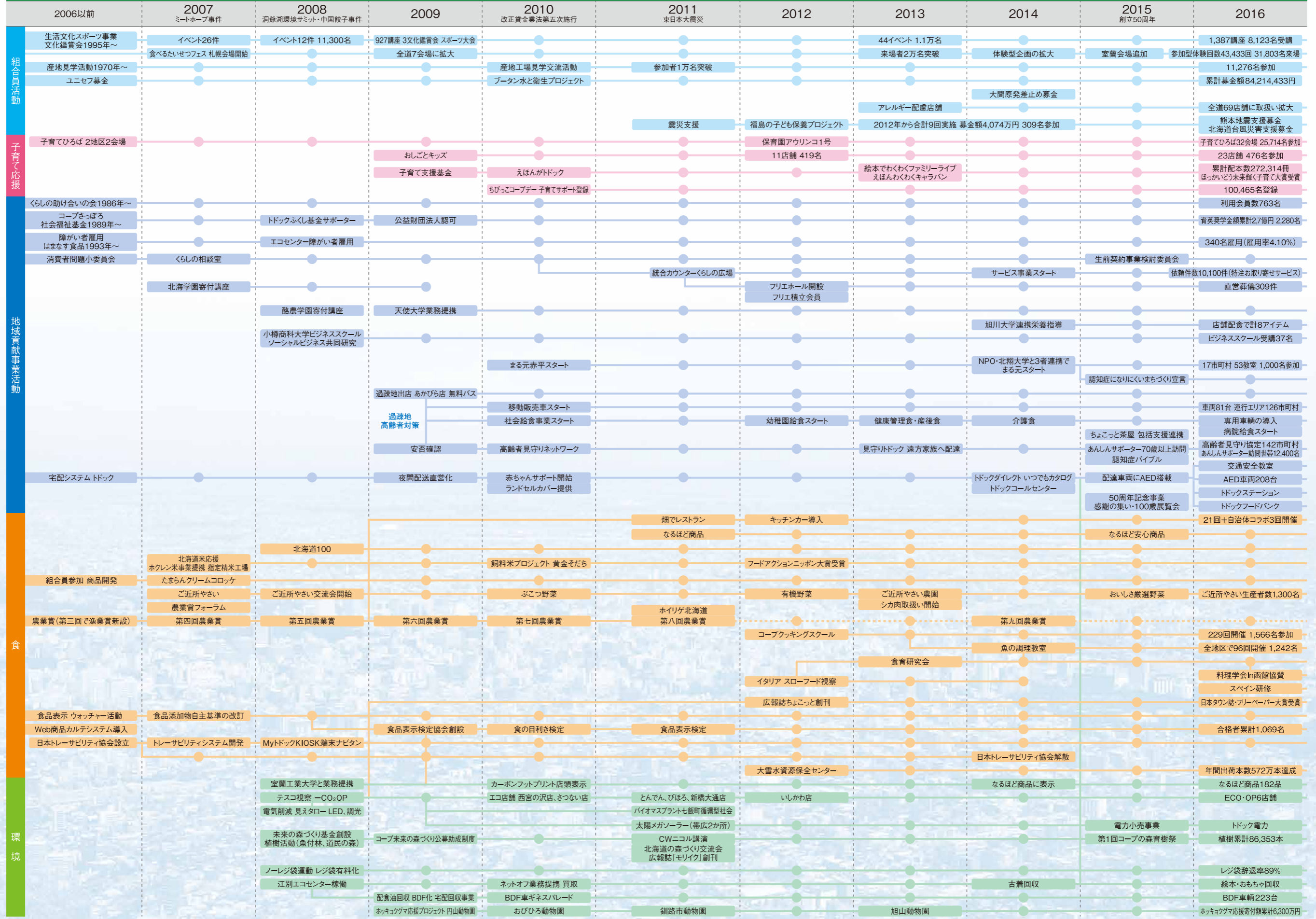
【特集】

北海道のコープさっぽろ

2007年、コープ十勝との統合によってコープさっぽろは全道組織になりました。10年間の歩みを振り返り、さらなる安心と革新につなげます。

コープさっぽろの社会貢献活動とその広がり

10年でさまざまな活動が次の活動を生み、たくさんの成果を出しています。



持続可能な事業の礎を築き、 北海道の食のインフラを目指す

コープさっぽろ理事長

大見 英明

全道の生協が一つになり 地域の課題に挑む

コープさっぽろが2007年に道内生協との統合を完了し、全道組織となって今年で10年が経ちました。統合を進めた背景には、1998年からの経営再建のさなか、地方生協も同様に厳しい経営を強いられていたことがあります。多くの地方生協が負債を抱えており、経営が成り立っていた小規模な生協も、今後単体で北海道の流通競争を生き残っていくのは難しいという判断がありました。つまり、生協が生協として存在していくために、規模を拡大し、商品供給での競争力を持つことが必要でした。

統合にあたり、「おいしいお店」のコンセプトの下、店舗改装を進めました。また商品や業務を標準化し、全道が一つのオペレーションで動くようにしました。さらに、道内の小売の競争が激化する中で、室蘭の志賀総合食料品店、旭川の旭友ストア、函館の魚長の3つのチェーンとも事業統合しています。生き残りのための色が強い全道統合でしたが、規模を拡大したことで競争力が強まり経営が安定しただけでなく、さまざまな政策課題に対する活動を、全道で統一的に展開できるメリットを得ることができました。

2008年、初めて環境をメインテーマとしたサミット「北海道洞爺湖サミット」が行われました。それに合わせて小売業ができる環境への貢献を考え、環境分野で最先端となるべく26のプロジェクトを2年間で実施しました。そのうちの一つ、イオン北海道様と協力して進めた**レジ袋有料化**によって北海道は、スーパーのレジ袋有料化率において47都道府県で一位となりました。

エコセンターを建て再資源化できるものを回収し、持続可能な循環型経済の礎をつくったことはエポックメイキングだったと思います。物流の戻り便を活用することで全道から低コストで資源回収ができることとなり、108店舗と33宅配センターの物流ネットワークを持つ価値を生かすことができました。

レジ袋有料化

2008年にレジ袋を1枚5円としたほか、レジ袋を辞退することで0.5円が積み立てられる「コープ未来(あした)の森づくり基金」を立ち上げ、基金は全道での森づくり活動やその支援に役立てられています。



毎年度民の森(当別)で開催される植樹祭

エコセンター

2008年に設立した、コープさっぽろの事業活動や組合員家庭から出る資源物を回収・処理し、リサイクルに回す拠点です。集めた廃食油から精製されたBDFは、宅配トラックの燃料にもなっています。2015年からは古着・古布回収を開始し、カンボジアでのリユースや、売上金の北海道ユニセフ協会への募金へつなげています。



回収した古着が販売されるカンボジアの店舗

農地が教えてくれた 北海道の食のさまざまな可能性

コープさっぽろの取組のメインは「食」にあり、2004年開始の**コープさっぽろ農業賞**が新たな事業への発展を見せています。

2007年からは私が実行委員長となりました。審査で生産現場を回って知ったこと、始めたことがあります。まずは生産現場には、規格外野菜が2割以上あること。それを**ぶこつ野菜**として流通させました。次に生産者は家庭菜園で小規模な生産をしていることを知り、そこから**ご近所やさい**が始まりました。春先でまだ収穫のない道東に、1カ月早く生産が始まる函館からご近所やさいを運ぶといった広がりも出てきています。

また、北海道の方にとっては当たり前に見えるだろう農村の風景は、本州出身の私には素晴らしい、別世界に見えました。この風景の有効活用を考えた時、都会の料理人が地方の地域おこしに役立っているイタリアのスローフードの取組を思い出し、2012年に**畑でレストラン**を始めました。新しいグリーンツーリズムの立ち上げにより、道内若手料理人のネットワークも形成できました。

北海道の農業と食を発展させる鍵として6次産業化^{※1}が言われますが、地方の生産地で採れる食材に特化して進めないと、差別化や、食文化を深めることはできません。例えばトマトで有名な平取町に、トマト料理の有名レストランがあるでしょうか。それは、生産と最終消費がまだつながっていないということです。畑でレストランを発展させれば、地方色を生かした事業創造ができるのではと考えています。

コープさっぽろ農業賞

「消費者の目線で優れた第1次産業の生産者を応援する」というコンセプトで、先進的で持続可能な農漁業に取り組む生産者を表彰する取組です。2012年の第8回からは3年に1回の開催とし、2017年に第10回が開催されます。

現地審査の様子



ぶこつ野菜

規格外野菜(見た目が悪くて市場に出回らないもの)を道内を中心に契約農家から集め、産地に近い店舗で格安販売しています。

ご近所やさい

店舗の近郊で収穫された野菜を販売することで、消費者は新鮮な野菜が手に入り、生産者は販路が広がり、さらに輸送時のCO₂削減にもなる取組です。店舗によっては道の駅風の販売コーナーを設けています。



ご近所やさい藤野農園

畑でレストラン

コープさっぽろ農業賞受賞者の畑で、名店のシェフがとれたての農産物を使ったランチを提供するグリーンツーリズム企画です(詳細P16参照)。2016年には、畑でレストランで生まれた料理をまとめたレシピブックも発行されています。



厨房設備を備えたキッチンカーで一流シェフが料理を提供

※1 6次産業化
地域資源を活用して、農林漁業の生産(第1次産業)と、加工や流通販売(第2次・第3次産業)を一体化して行う産業を創出すること。

食育をさらに強化し 北海道を食の知識の拠点に

前述したイタリアの取組は、スローフード協会が設けられて28年が経過し、今ではイタリアがEU内の農業生産国として発展した軸になっています。その発展について学ぶために、取引先と3年連続で視察に行きました。そこで驚いたのは、イタリアでは農業生産者や関連団体による食農教育に手厚い助成がされているということです。次世代に食を伝えるプログラム、つまり食育を旺盛に行っているのです。

食育はコープさっぽろにとっても組合員活動の中心テーマの一つです。子どもたちが体験的に食に触れる教育プログラムを本気で開発するため、生産者や取引先の皆さんと食育研究会を結成し、既に開始していた**食べる・たいせつフェスティバル**のプログラムの進化につなげました。

将来的には、北海道の優れた農産物を生かす産業振興と教育機能を統合しなければいけないと思っています。教育ファームの設立や、スペインのバスク・クリナリー・センター^{※2}のような、食の専門大学を北海道でも設立したいと思っています。

食べる・たいせつフェスティバル

道内の農漁業生産者、行政・学校などの団体、メーカーが集い、消費者と交流しながら、北海道の食や地産地消を啓発する食育イベントです(詳細P14参照)。



さまざまな体験型プログラムによって子どもたちが食を学びます

^{※2} バスク・クリナリー・センター
美食で有名なスペイン・バスク地方で地元の労働者協同組合モンドラゴン協同組合企業が設立したモンドラゴン大学に、2011年に開設された食科学学部。4年制で料理を専門的に学べる“料理の大学”です。

絵本で語り継ぎたい 親子の絆や大切な価値観

2010年にはコープ子育て支援基金を創設しています。文化に触れて親子の絆を形成するような取組に価値があると思われ、**えほんがトドック**という絵本の無償提供プログラムを始めました。提供した絵本の総数は25万冊を超え、2016年12月に

は北海道から子育て大賞を受賞しました。現在は絵本だけでなく音楽を含めた活動にも広がりを見せています。

親が子に肉声で価値観や、日本人のアイデンティティを語り継ぐことは重要であり、そのためには絵本をどう選ぶかが問われるところです。絵本の専門家や教育関係者と専門委員会をつくり、検討しています。

えほんがトドック

1〜2歳の子どもがいる組合員家庭に、無償で4冊の絵本を提供するプログラムです(詳細P19参照)。



絵本を通じて、親子が一緒に過ごす時間を増やします

買物難民・見守りなど 高齢化に立ち向かう販売戦略

コープさっぽろの成長や経営再建を支えた世代は、今は高齢となっています。過疎と高齢化の問題に生協がどう対処すべきか、これも次世代への取組とともに真剣に考えた課題でした。特に買物に苦労されている方に対してどうするか。中にはもちろん**宅配トドック**を利用している方もいますが、クレジット決済やマークシートでの買物ができない高齢の方もいることが分かっていたため、支援策が必要でした。

買物難民が問題になり始めた2007年、たまたま夕張清陵店から「移動販売車が古くなったから買い換えたい」と連絡が来て、移動販売が事業として成り立っていることを知りました。自治体が財政破綻し、高齢化率が道内で最も高い夕張で赤字が出るのであれば、全道どこの地域でも事業ができるはず。そう考え**移動販売事業(おまかせ便カケル)**を開始したところ、事業として成立させながら買物難民エリアの7割以上の地域

への商品供給を達成できました。

これら宅配網と移動販売網を活かせるのが、**高齢者見守り**(P9参照)です。物流のインフラと組織を持ち、高齢の組合員宅を週1回必ず訪問するというラストワンマイル^{※3}を受け持つ生協なら、行政がフォローできない部分をカバーできます。見守りの質、つまり住人に異変があったときに職員が気付く力をつけるため、札幌医科大学の総合診療学科と一緒にテキストを作り、職員教育の体制を整えました。

コープ宅配システム トドック

協同購入の宅配を1997年に個配化し、2006年に強化してスタートした新たな宅配サービスです(詳細P8参照)。



地域担当者が週1回、決まった時間に組合員宅に商品を届けます

おまかせ便カケル

商店の少ないエリアを中心に、決まったコースを巡回する移動販売車です(詳細P13参照)。



高齢者支援から始まった配食が 食と健康の提供へと結びつく

日本の医療政策では今後、治療できる病気やけがであれば、入院後1週間程度で退院しなくてはなりません。手術直後の方なら、1週間で家に帰っても体は不自由ですし、入院を繰り返すような方々なら、食材を調達して料理をすることがままならないこともあるでしょう。そうした方々に完成品としての食事を届ける、ライフラインの一つとなる**配食事業(コープ配食サービス)**を始めました。現在は6工場、配達専用車両約240台と設備体制整備も進み、夕食のみの提供から朝食にも広げること検討しています。

配食のインフラがあることから幼稚園給食を始め、さらにアレルギー児童への対応も始めましたが、さらに2017年から病

院食事業を始める準備もしています。材料は北海道産を中心とした国産品で、かつ極力冷凍食品を使わない、おいしい病院食です。ご近所やさいをはじめとする、私たちの調達力を生かし、地域に密着した形で提供できるように考えています。

コープ配食サービス

独居や高齢の夫婦のみの世帯など、食事の準備が大変な家庭に弁当を届けるサービス。2012年からは幼稚園給食を開始し、2016年からはアレルギー児童用のメニューも開始しました(詳細P12参照)。



アレルギー児童に対応した幼稚園給食

持続可能な事業により 未来への課題を解決してゆく

これからの食を考えると、食と健康増進を結びつける機能が求められています。医療分野の現在の主なテーマである「予防」を食につなげてカバーしていくのが今後のテーマです。医療機関が遠い地域の方々には、病院にかかる前の健康サポートが必要になってきます。現在も認知症、高齢の方の栄養、健康寿命の増進といった高齢化に関わるさまざまな問題に取り組んでいますが、今後もっと進化させなければいけません。

もう一つ、北海道はほとんどの地域が過疎となりつつあります。人口が減ると物流効果が落ちるため、物流の維持は非常に大きな問題です。宅配・配食・移動販売で約1,500台の車両を持つコープさっぽろは、物流としても大手となってきています。食を軸に、北海道の隅々まで物流を支えること。以前から言っていますが、食のインフラとなることは今後の方向性だと思っています。

地域循環型の持続可能な経済組織を北海道で構築するというのがマクロな視点での課題となります。食糧自給率を上げる。道内消費を拡大する。また、エネルギー問題を考え脱原発を目指す。こういったテーマに取り組むことが他社とは違う、生活協同組合ならではの役割だと思っています。

^{※3} ラストワンマイル
通信業界で使われ始めた用語で、家庭・企業の利用者の建物まで通信回線をつなぐための最後の工程。転じて物流・流通業界でも、消費者の家庭まで商品・荷物を届ける最後の区間を指すようになりました。

高齢化社会の中で、 安心して元気に暮らせるように

認知症になりにくいまちづくり宣言&まる元

宣言を行った市町村に 認知症の早期発見と早期支援を

ご高齢の方の約4人に1人が認知症、またはその予備軍といわれています。今後もさらに認知症患者は増える見込みで、国の重要課題ともなっています。

コープさっぽろはNPO法人ソーシャルビジネス推進センター、北翔大学と「認知症になりにくいまちづくり推進本部」を2015年に設立し、「認知症になりにくいまちづくり宣言」を行った市町村に活動支援を行っています。2016年度は宣言市町村が8市町村になりました。

現在は主に、認知機能低下がみられる(MCI)ご高齢の方々の早期発見・早期支援のため、地域包括支援センターや保健・福祉担当職員と連携、協力のもとで認知機能テストを行っています。2016年度は7市町村の726人にテストを実施し、MCIの疑いのある方101人を把握しました。これらの方々にはさらに二次スクリーニングを実施し、それぞれに必要な保健・医療・福祉の支援に結びつけています。

■認知症になりにくいまちづくり宣言市町村

赤平市、寿都町、上士幌町、北竜町、浦河町、芦別市、三笠市、池田町



体力測定会

認知症予防講演会を開催しました

2016年5月30日、札幌教育文化会館に鳥取大学浦上教授とNPO法人 ソーシャルビジネス推進センター相内理事長をお招きし、認知症予防についての学習を目的に、組合員に向けた講演会を開催しました。定員を上回る申込みがあり、350名の参加者で会場は満席状態の大盛況となりました。講演アンケートにはコープのお店で「ゆる元」運動や認知症予防教室を開いてほしいという要望が多く寄せられました。

認知症の最新情報を共有し 各市町村の取組を支援

2016年4月からは「認知症になりにくいまちづくり宣言」ニュースを2か月ごとに発行。各市町村の認知症予防の取組みの紹介や、全国の先進的な事例、学会発表論文、世界的な研究論文などを掲載し情報共有しています。宣言市町村はもとより、「まる元」(後述)実施市町村や問合わせなどのあった市町村に送付し、認知症予防の普及を目指しています。

また、自治体の認知症予防担当職員を対象に、研修会を年2回(7月・2月)開催しています。2016年度の開催では、認知機能テストの機器(TDASなど)の活用演習を実施。さらに札幌医科大学の下濱教授から「認知症の基本的な理解と予防」、日本認知症予防学会理事長の鳥取大学浦上教授から「認知症予防事業の進め方～鳥取県琴浦町発の認知症予防の取組みから～」というテーマでご講演いただきました。自治体職員が認知症予防の知識や技術を学び、各市町村における認知症予防の取組を推進することを目指しています。



第2回自治体職員研修のグループワーク

適切な運動指導で健康アップ 「まる元」の取組

コープさっぽろは、NPO法人ソーシャルビジネス推進センター、北翔大学との協働で「地域まるごと元気アッププログラム」(通称「まる元」)の事業を行っています。NPO法人ソーシャルビジネス推進センターが自治体から委託を受けて運動教室を実施し、その運動指導を行う10名の健康運動指導士はコープさっぽろの職員です。2016年度に「まる元」を導入した自治体は17自治体になりました。



それぞれの運動能力に合わせて、適切な運動を指導します

一人でも安全に運動できる 「ゆる元体操」の普及

運動は「まる元」の教室だけでなく、日常的に行うことでさらに効果が出ます。ご高齢の方が一人でもグループでも安全に楽しめる運動として、北翔大学が開発した「ゆる元体操」の普及に取り組んでいます。いつでも誰でも運動できるよう、DVDとブックレットをセットにして配布し、その部数は既に600部を超えています。

「ゆる元体操」をより多くの方に実践してもらえるように、北翔大学が「ゆる元指導者認定講座」を行っています。認定講座は、グループでの運動を安全・安心に指導することができる「初級指導者」、飽きのこないゆる元体操を指導することができる「中級指導者」、ゆる元体操を普及するための計画立案ができる「上級指導者」の段階があります。2016年度で「初級指導者」は140名になりました。



椅子に座ったまま気軽に行える「ゆる元体操」

ゆる元指導者認定講座(初級指導者)の様子



まる元運動教室の流れ

- 1 参加者一人ひとりの体力測定を行います。
- 2 体力測定の結果によって、参加者を体力別にクラス分けします。
- 3 一人ひとりの体力・その日の体調に合わせて、やる気を高め、体力を維持する運動を行います。

■2016年度活動実績

導入自治体	17自治体	赤平市・芦別市・深川市、秩父別町・北竜町・東川町・余市町・石狩市・池田町・上士幌町・浦幌町・音更町・島牧村・寿都町・黒松内町・長万部町・鹿部町
開催数	53クラス	参加者1,000名超

Mottoつなぐ

ご高齢の方々の安心に関わる取組

ちょこっと茶屋

「ちょこっと茶屋」は、地域見守り活動の店舗版として2015年に始まりました。買物帰りに立ち寄り、ほかの参加者と交流しながら手先の運動や、悩み事の相談などができる窓口です。

2016年度は各店舗地区本部が行政に地道に働きかけて全道各地に開催が広がり、札幌市でもモデル5店舗が順次開催されています。



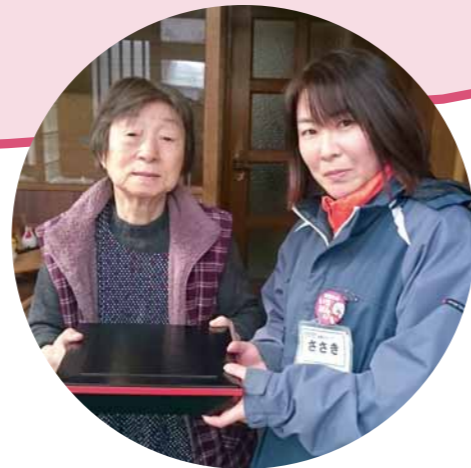
●ちょこっと茶屋開催店舗

13市町22店舗(登別市、釧路市、白糠町、旭川市、北斗市、苫小牧市、浦河町、帯広市、札幌市、伊達市、室蘭市、北見市、函館市)

シニアコープデー

コープさっぽろでは以前より、ご高齢の方々の生活を応援する割引制度を設けてきました。店舗では毎週木曜に、60歳以上の組合員が5%割引となる「シニアコープデー」を設けています。

「食のインフラ」であるコープさっぽろの大きな使命は、安全・安心なみなさんの食卓と、それをつくる生産者たちを守り、北海道の食文化を豊かにしていくことです。



安全・安心でおいしい食事を届ける コープ配食サービス

配食エリアはさらに拡大 専用車両導入でより安全に

「コープ配食サービス」はご高齢の方のみの世帯が増える中、「食事の用意が大変」という声に応え、夕食の提供と見守りを2010年10月から開始しました。現在は全道6工場で配食の製造をしており、2017年8月には帯広工場が新工場へと移転予定です。これによりさらに多くの食数が提供可能となり、現在の帯広配食エリア(帯広市、音更町、幕別町、芽室町)をさらに拡大していく予定です。

2016年7月からは、配食サービス専用車両を導入。保冷スペースも大きく確保できるようになり、より安全に、多くのお届けが可能になりました。



季節の美味しさと栄養バランスを考慮して作る普通食

食事から健康を守る 「バランス栄養食」の提供

ただ食事を届けることから一歩進み、栄養改善を通じて生活習慣病を予防し、健康へ働きかけることに取り組んでいます。その一環として管理栄養士監修の下、カロリー・栄養バランス・減塩を考慮した「バランス栄養食」を提供しています。

バランス栄養食では、1日のカロリー摂取量を1,440kcalに設定した献立も選べます。また、たんぱく制限食(40g・60g)を体に合わせて選べる健康管理食、かむ力や飲み込む力が弱くなった方にも食べやすい形で、低栄養素の予防・改善などバランスの良い食事(やわらか食)も提供開始しました。



健康的な生活を考慮し、塩分とカロリーを控えた低カロリー食

「アレルギー室」設置の新工場 子どもたちの食事にさらに安心を

2012年からアレルギー園児給食の提供を開始し、現在25幼稚園198名にアレルギー食を提供しています。

2016年9月26日には、白石区菊水元町に新たに配食札幌工場が完成し、旧白石工場から製造を移転しました。新工場はHACCP仕様の設計になっており、以前より食数やニーズに応えられるようになりました。

新工場には新たにアレルギー室を設けました。5坪(16.2㎡)のスペースに専用の器具・備品やフライヤー、ガスレンジ、冷蔵庫、まな板・包丁殺菌庫が備え付けられています。衛生管理、品質管理には最大限の注意を払っています。

今後、給食の食数拡大とともに今まで以上に多くのアレルギー園児への安全・安心をお届けしていきます。

2016年度配食サービス

配食サービス登録人数	39,823名
利用人数	6,546名

<週平均食数>

- ①配食サービス / 32,085食
内訳 普通食14,282食、低カロリー食16,475食、
週替り大人気メニュー642食、木曜プレミアムメニュー373食、
北海道人気駅弁メニュー313食
- ②健康管理食・バランス栄養食 / 4,809食
- ③産前・産後食 / 82食
- ④行事食 / 111食(月平均)

2016年度幼稚園給食サービス

- 取引園数 / 61園
札幌市18、岩見沢市6、江別市1、苫小牧市11、登別市2、室蘭市1、
千歳市1、旭川市8、釧路市12、小樽市1
- 週平均食数 / 6,428食

「買物難民」エリアの、バランス良い食生活を支える コープの移動販売車「おまかせ便カケル」

高齢化・過疎化により小売店が撤退し、買物ができない地域を対象に、移動販売車「おまかせ便カケル」を運行しています。コープさっぽろの店舗を拠点に、約1,000商品を積んだ専用車両が、曜日によって決められたコースを運行します。現在81台の車両が、全道125市町村を走り、約25,000の方が移動販売を利用しています。

小売店のない「買物難民」エリアに住む方は、栄養バランスが悪い食事になりがちです。コープさっぽろが四国大学・大塚製薬(株)との協働で調査した結果、移動販売車を利用する方々は、店舗利用者に比べ、肉や乳製品、野菜類の摂取が少なく、栄養充足度が低いことがわかりました。

そこで大塚製薬(株)と共に「かんたん栄養チェックサービス」を開発しました。これはタブレット端末を利用し、音声ガイダンスに従って質問に答えるのみで、栄養充足度を判定するものです。栄養不足と判定された方には、該当する栄養素を多く含む食品をおすすめします。商品を運ぶだけでなく、利用者の健康を支える販売の仕方を進めています。



Mottoつなぐ

安全・安心な食を届ける取組

なるほど安心商品の強化

コープさっぽろでは、品質の安全・安心にこだわったPBブランド「なるほど安心商品」を2015年度から販売しています。2016年度は新たに10商品を開発、全体で12商品とラインナップを強化しました。



●まるやか旨味緑茶
指定農園である鹿児島県おりの園で、除草剤・殺虫剤・化学肥料を用いず生産された茶葉を使用。

魚売場で対面販売を開始

丸魚は調理しにくいという声に応え、一部店舗で魚売場を対面販売に切り替えました。要望に応え三枚おろしなどさまざまな調理サービスを行うほか、鮮度を強調した魅力的な売場づくりにつなげています。



●対面販売実施店舗
二十四軒店、にしの店、ほんどり店、あいの里店、湯川店

大学生がレジビ開発の弁当・惣菜を販売

旭川短期大学部食栄養専修の学生による料理サークル「COLOLO」とコラボした惣菜を2016年11月に全道販売。コープ配食サービスでも提供しました。



旭川

また、2017年2月には函館湯の川店で函館短期大学とコラボの弁当を販売。北見きよみ店では「高校生チャレンジグルメコンテスト」コープさっぽろ賞の北見北斗高校の生徒が試食販売を行いました。



函館

中学生に朝ごはん&朝学習「朝塾」開催

朝ごはんを食べない子どもたちが増えているため、朝ごはん朝学習の大切さを伝えるイベント「朝塾」を2回実施しました。中学生を対象に、北海道大学の学生が勉強を教え、天使大学の学生と一緒に調理体験をしながら、学生考案メニューの朝ごはんを全員で味わいました。



体験しながら親子で楽しく食を学ぶ

食べる・たいせつフェスティバル2016

参加型体験プログラムが 300種を超えて充実

2007年より開催を続けている「食べる・たいせつフェスティバル」は、コープさっぽろ最大の食育イベントです。道内の生産者、行政や学校などの団体、メーカーが一堂に会し、消費者と交流する中で北海道のおいしい「食」や地産地消の大切さを伝えています。

このイベントでは、簡単な料理やクイズなどさまざまな形で食に触れながら、子どもたちが「食を学ぶことの大切さ」を発見・体感できる参加型体験プログラムを多く実施しています。各関係団体と協力の下、プログラム開発と内容の充実に力を入れています。各会場では「参加型体験プログラムコンテスト」を実施し、最も優れた取組を実施した団体を表彰しています。

2016年度は前年よりも79多い、327団体がプログラムを実施し、その実施回数は延べ43,433回となりました。

地域イベントとして定着 来場者は過去最高に

昨年に引き続き、参加型体験プログラムを終えた方々に「ポイント券(フェス券)」を贈呈し、それを集めて買物体験ができる「ラブコープコンビニ」も好評でした。

これらの取組から、来場者数が過去最高となっただけでなく、札幌以外の各会場でも3,000人を超え、各地区の食育イベントとして大きく成長しました。今後もさらなる内容の充実を図り、より楽しいイベントを目指していきます。

■地区別開催状況(来場者数、出展者数、支援者数)

地区	来場者数	出展者数	支援者数
札幌(8月27日)	7,490	115	990
室蘭(9月17日)	3,019	64	330
苫小牧(9月24日)	3,274	62	376
北見(10月1日)	3,409	74	430
帯広(10月9日)	3,523	71	371
旭川(10月9日)	4,542	82	518
函館(10月15日)	3,234	50	353
釧路(10月22日)	3,312	65	373
8地区合計	31,803	583	3,741



(株)べつかい乳業興社様「牛乳からできるもの〜バターはどうやってできる?〜」



(株)ナシオ様「めざせ!お菓子マスター」

【参加型体験プログラムコンテスト結果】

札幌会場	(株)明治 北日本支社 札幌オフィス様 「ヨーグルトのひみつ」
室蘭会場	(株)ナシオ様 「めざせ!お菓子マスター」
苫小牧会場	ホクト(株)様「きのこのひみつ大発見!!〜クイズ大会&もぎとり体験〜」
北見会場	(株)マルキタ様「プチ・お魚調理教室〜旬のお魚、さばいてみよう〜」
帯広会場	(有)中田食品様 「豆腐作り体験」
旭川会場	旭川食品産業支援センターwith旭川農業高校あったか旭川まん班様 「あったか旭川まんを作ろう!!」
函館会場	大沼ガロハーブガーデン様「ミツバチの秘密と蜜蝋のろうそく作り」
釧路会場	(株)べつかい乳業興社様 「牛乳からできるもの〜バターはどうやってできる?〜」

参加者の声

- 親子で楽しめました。
- 子どもの勉強にもなり、良いイベントだと思います。
- とても楽しかったです。来年も楽しみにしています。
- たくさんの体験ができて大満足です。

上級コースを加え、さらに魚の調理技術を継承

魚の調理教室

近年、魚をさばけない消費者が増え、丸魚の消費が落ちたほか、家庭で和食文化が継承されない危機も生まれています。コープさっぽろでは2014年から、札幌市中央卸売市場と協力して「魚の調理教室」を開催。魚をおろす調理技術を伝えて食文化を継承し、魚の消費拡大につなげることを目指しています。

3年目を迎えた2016年度は通常開催に加え、前年度好評だった「親子魚教室」を5回に増やして開催しました。また一度参加した方から「もっと難しい魚も挑戦したい」という声が届いたため、新たに上級コースを設定しました。1コース年4回の開催で、季節ごとの旬の魚の調理も教えます。八角の姿造りやごっこさばき方などに参加した16名からも大好評で終了しました。

■2016年度開催状況

調理教室(地方開催含む)	58回	1,310名
親子教室	5回	170名
上級コース	1コース年4回	16名



親子教室の様子



上級コースの様子

仕事体験と食育学習で、子どもの夢を広げる

おしごとキッズ

コープさっぽろの店舗での仕事を体験しながら、食材が店頭並び、消費者に購入されるまでの流通や仕事の面白さや大変さを学ぶ「おしごとキッズ」を、夏休み・冬休みに開催しています。取り扱う商品や、作業の理解を深める学習の機会を設けるなど、より仕事の内容や商品に興味・関心を持てる内容に進化しています。

また、このプログラムでは店舗での体験のほかに、さまざまな食育学習を事前学習として行っています。地元でとれる水産物・農産物の学習や、高校生による体験学習会など、コープさっぽろ職員だけでなく、地域の皆さんにもご協力いただき食育学習体験を実施しました。



バックヤードで魚のウロコ取り



組合員さんのお買物商品を実際にレジ打ち

参加者の声

- お給料(にかわる「ドック紙幣」)がもらえて「本当に仕事をした」という気持ちに。とても良い経験でした!!
- 初参加でしたが、実際にお客さん相手に接客するとは知らず、とても良い体験になりました。子どもも喜んでいました。
- 自分たちの作ったものを実際にお客様に買っていただく体験はなかなかできないと思います。それをお土産にもいただき、家族みんなで大満足な会話の機会ができました。
- 本物の売り物やお客さんと関わるのはなかなかない機会なので、ぜひまた参加させたいです。担当していただいた方々もとても親切でした。
- いつもはただ欲しい物だけを買うスーパーですが、店頭並びまでの経緯やお店の方の仕事を知り、これからの買物がまたひとつ違う感じ方になると思います。



地域自慢の食材が、一流シェフによるランチに変身

畑でレストラン

畑の真ん中で農業を学びながら ランチフルコースを楽しむ

コープさっぽろは、消費者と生産者をつなぐ活動を行ってきました。「コープさっぽろ農業賞」(P5参照)はその一つで、志の高い生産者と消費者との産地交流も進めてきました。さらに食材の魅力を引き出す料理人をつなぐことで、道産食材に新たな価値が生まれます。

そこで、農業受賞生産者の生産地で、1日限りのレストランを開くグリーンツーリズム「畑でレストラン」を実施しています。厨房設備が搭載されたオリジナルのキッチンカーで畑に出動し、一流シェフがとれたての素材を用いて、その日限りの特別なランチコースを提供します。

「畑でレストラン」は、年々食育プログラムとしても充実してきています。ランチを味わう前には、生産者が作物やその生産のことを話したり、収穫体験をしたりと、農業やその農作物についても学べる機会となっています。現在では、チケットの売切れが続出するほどの人気企画として定着しました。



フルコースのランチを堪能

■2016年度 畑でレストラン(通常開催)

開催日	開催地	シェフ	参加者数
6月 5日	余湖農園(恵庭市)	SIO 佐藤陽介シェフ	48名
6月 12日	押谷農園(長沼町)	W27 下国伸シェフ	49名
6月 19日	鳥羽農場(足寄町)	季璃香 石井登シェフ	48名
6月 26日	西川農場(美幌市)	Ippocampo 井藤史晃シェフ	54名
7月 3日	1.5(いちご)FARM(石狩市)	meli melo 佐藤大典シェフ	50名
7月 17日	メノビレッジ(長沼町)	Banquet 若杉幸平シェフ	47名
7月 24日	多田農園(上富良野町)	petit lapin(滝川市) 老田弘基シェフ	52名
7月 31日	滝下農園(余市町)	トラットリア ピッツェリア テルツィーナ 堀川秀樹シェフ	52名
8月 7日	石崎水産(日高町)	Bistrot poele 早貸大吾シェフ	53名
8月 11日	大塚ファーム(新篠津村)	Capri Capri 塚本孝シェフ	49名
8月 21日	あしだ農園(千歳市)	Day's Kitchen 創 笠原大介シェフ	51名
8月 28日	鈴木農園(三笠市)	BARCOM Sapporo 金子智哉シェフ cantine SEL 黒滝祐輔シェフ	57名
9月 4日	ごとう農園(真狩村)	TAKU円山 和田勇人シェフ	48名
9月 11日	高橋ファーム(えりも町)	brasserie coron with LE CREUSET 塚田宏幸シェフ	52名
9月 18日	しみず農園(北斗市・道南2DAYS)	Le climat HAKODATE 関川裕哉シェフ	50名
9月 19日	ついき農園(七飯町・道南2DAYS)	L'oiseau par Matsunaga 松永和之シェフ	50名
9月 22日	八剣山ワイナリー(札幌市)	ヨルコワリ 小割真樹シェフ	40名
9月 25日	宇井農場(新得町)	Gravita 平木正人シェフ	42名
10月 2日	鶴沼ワイナリー(浦臼町)	Grand 因藤典文シェフ	57名
10月 9日	永光農園(札幌市)	Akihisa Handa 半田明久シェフ	40名
10月 16日	大塚ファーム(新篠津村)	Ricci 川崎律司シェフ	46名
合計	21回実施		1,035名

新たに道内市町村とコラボし まちの魅力をランチで伝える

2016年度からは新たな取組として、道内市町村とのコラボによるスペシャル開催をスタートしました。市町村がPRしたい地域の素材・特産品を、シェフの手で素敵なランチにアレンジして提供。まちと食材の魅力を伝えることで、都市部からその市町村を訪れる人を増やすことを目指す取組です。2016年度は倶知安町、洞爺湖町、和寒町の3町で開催し、今後はさらにコラボを拡大していく予定です。



野菜のおいしさで 生産地の魅力を発信する

北海道は、全国的に見ても野菜の摂取量が不足していることが調査でわかっています。今後はよりいっそう、生産地ならではの「野菜のおいしさ」を感じていただくような内容を目指し、2017年度は「野菜いっぱい・おなかいっぱい・ちょこっといっぱい」をテーマとして開催します。また、食べることから料理にも興味を持っていただけるように、ライブクッキングの実施やカフェスタイルでの開催など、新しく楽しいチャレンジを続けていきます。



会場では生産者の話を聞き、食材や産地のことが学べます

Mottoつなぐ

食文化発信の取組

世界料理学会を応援

函館市では、世界で活躍する料理人が集まり、料理やその哲学について学会スタイルで語り合う「世界料理学会」を開催しています。2016年9月5日、6日に第6回の世界料理学会が開催されました。実行委員会代表・深谷宏治シェフらによるトークセッションや交流パーティーなどが行われ、2日間で1,200人を動員しました。コープさっぽろはこのイベントを支援しました。



「ちょこっと上のお魚教室 家庭でできるスペイン料理」を開催

世界料理学会を支援した流れで、その実行委員会代表であり、「函館バル街」の発起人でもある「レストランバスク」の深谷宏治オーナーシェフを講師に招いて料理教室を開催しました。料理人としての道のりや、スペイン料理についての奥深いトークを交えながら、スペイン料理の魚料理3品を実演。プロの味を試食しながら、魚の調理を学びました。



●開催データ

場所: いしかわキッチンスタジオ
参加者数 16名

鹿肉学習会&調理デモ

コープさっぽろでは、農林業などにさまざまな被害をもたらすエゾシカ問題の解決に向け、エゾシカ肉の流通を確立し、販売を進めています。エゾシカ肉消費向上を目指し、2016年11月25日に函館・いしかわ文化教室で「鹿肉学習会&調理デモ」を開催しました。北海道エゾシカ対策課の福田氏に講演をいただいたほか、函館短期大学付設函館調理製菓専門学校吉田教頭・伊藤教務主任を講師にロースト鹿肉の試食を行いました。



未来を担う、次世代の子どもたちが健やかに育つために、
また、コープさっぽろがその未来でも事業を続けていくために。
子育て、進学、雇用、平和などさまざまな問題に取り組んでいます。



「もったいない」商習慣を見直し、 子どもたちの成長に役立てる

トドックフードバンク

返品商品を子どもたちへ フードバンク活動を立ち上げ

フードバンクとは、まだ食べられるのに賞味期限などの理由で
廃棄処分される食品を、食べ物に困っている人や施設に配布
する社会福祉活動です。

一方、食品業界では、賞味・消費期限が残っている商品が廃
棄される『食品ロス』の問題が生まれています。品質に問題がな
くても、ある程度の日数が過ぎると商習慣から商品が販売されな
くなり、その多くが廃棄されているのです。

これらの「もったいない」を解決するため、「トドックフードバン
ク」を2016年5月5日(こどもの日)から開始しました。宅配トドク
では、注文ミスなどによって返品された食品が、品質や消費期限
に問題がなくても売り物にならないため廃棄されていました。この
返品を、道内23カ所の児童養護施設に1~2週間に1回の頻
度で提供しています。

また、9月9日からは、フードバンク活動を発展確立させるため
に「トドックフードバンク基金」を設立。さらに11月29日には、ト
ドックフードバンクの趣旨に賛同する食品関連業者6団体と活
動に関する協定を締結しました。これにより企業などからの提供
品もフードバンクに加えることができました。



■2016年度活動実績

提供品	50,828品 (33,505,584円相当、 57,201kg)
-----	---

適切に食品が利用されるよう コープさっぽろが管理

食品を提供するにあたり、それが適切に使用されているかどう
か、徹底して情報管理を行っています。商品提供時には「商品
一覧」を添付し付合せ確認を行い、一覧の保管管理を施設に
義務付けています。提供品が施設の子どもに適切に使用される



6団体との協定式の様子

トドックフードバンクのしくみ

①返品食品が宅配センターへ

品質に問題のない返品食品が、道内各地
の宅配センターに集められます。このうち、
賞味期限が1か月以上残っている常温管
理の加工食品と冷凍品がトドックフードバン
クの提供品になります。

②提供品の受渡し

児童養護施設の職員に、1~2週間に1
回のペースで、施設の最寄りの宅配セン
ターにて提供品を渡します。



ためには、施設職員が提供品を把握して使用計画を立て、保管
する必要があります。そのため「自主点検簿」をつくり、施設へ記
入・提出を義務付けています。

一部の施設では、卒園生や里親に提供品の二次提供を行っ
ています。その場合は併せて商品提供報告書の提出を求めて
います。

子どもに食の楽しさを伝える トドックフードキャラバン

トドックフードバンクは食品を提供するだけでなく、食育活動も
活動の一つとしています。2016年度は11の児童養護施設で
食育イベント「トドックフードキャラバン」を実施しました。子ども料
理研究家の(株)のこたべ 能戸英里先生が施設を訪問し、子
どもたちと料理を作ることを通して料理の楽しさと誰かのために何
かする喜びを伝えています。



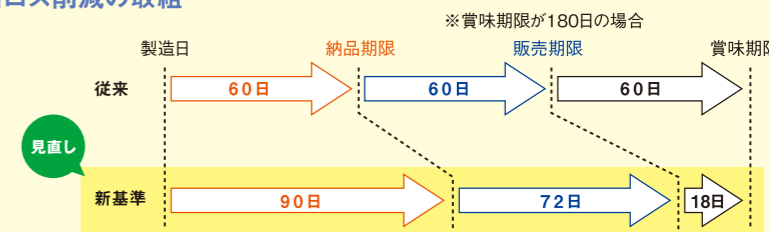
子どもたちと一緒に菓子作り

■2016年度活動実績

トドックフードキャラバン	11施設 152人参加
--------------	-------------

「3分の1ルール」見直し ~食品ロス削減の取組~

コープさっぽろは、食品ロスの元となっている「3分の1ルー
ル」の見直しを行いました。これは、食品製造日から賞味期
限までの日数を3分割し、3分の1を納品期限、3分の2を販
売期限と定める商習慣です。2016年4月から新基準を設
定し、賞味期限が60日以上菓子・加工品を対象に、納品
期限を2分の1に、販売期限を賞味期限まで残り10分の1
まで延長しました。これにより食品廃棄の削減を目指します。



絵本を通して、親子の絆と文化を育てる

えほんがトドック

1~2歳の子どもがいる子育て世帯を対象に、4カ月ごとに1
冊ずつ、合計4冊の絵本を無償で届ける「えほんがトドック」。組
合員に大変好評であり、2016年度には延べ登録世帯が5万を
超えました。絵本を通して親子の絆を育み、文化や大切なことを
伝える時間としてほしいという思いから続けています。

子どもたちに絵本の楽しさを伝えるため、全道の保育園・幼稚
園などでも、絵本の読み聞かせやトドックのステージを行う「えほ
んわくわくキャラバン」を実施しています。また、2016年は函館・
釧路・帯広・旭川4都市で「絵本でわくわく!ファミリーライブ」を開
催し、「ピアニカ王子」の愛称を持つ大友剛さんのステージを行
いました。

■えほんがトドック2016年度実績

2016年度登録者数	8,763名
延べ登録世帯	50,854世帯
配布冊数	272,314冊
えほんわくわくキャラバン	
訪問園数	151施設
参加園児数	13,369名

絵本でわくわく!
ファミリーライブ参加者

函館	344名
釧路	328名
帯広	397名
旭川	364名
合計	1,433名



2016年度配布の絵本



返済不要の奨学金で就学を支援



大学生育英奨学金記者発表の様子

大学進学も安心 「大学生育英奨学金」開始

現在、日本の大学生を対象とした奨学金の多くは貸与型であり、卒業後に返済で生活苦に陥る人が多いことが報道されています。コープさっぽろでは、2017年4月から返済不要の奨学金を、短大・大学院を含む大学生や、高等専門学校4・5年生にも給付を開始することを、2016年12月27日に発表しました。給付を受ける学生は、コープさっぽろの店舗や工場などでアルバイトをしながら、大学生活を送ります。

コープさっぽろ 大学生育英奨学金

対象
大学(短大、大学院を含む)に就学または進学予定の方、または高等専門学校の4・5年生で就学している方

●給付金額
年額25万円(最長4年間100万円)



一人親や、障がいのある高校生に返済不要の奨学金を支給

公益財団法人 コープさっぽろ社会福祉基金
コープさっぽろ社会福祉基金は、コープさっぽろの福祉・助け合い活動を土台とし、1989年に設立された財団法人市民協社会福祉基金として始まっています。設立の翌年から育英奨学金を続けてきました。一人親または両親がいない家庭や、高等支援学校の生徒を対象に、月額1万円を3年間、返済不要の奨学金として給付しています。これまでの27年間で、2,280名に2億6913万円を給付してきました。

奨学生とご家族の声

経験を将来活かして
先日現場実習があり、老人ホームで4日間行いました。食事をあげるのが大変でした。この経験を将来活かしていきたいです。これからは勉強や作業をがんばっていききたいと思います。(高1女子)

毎日、楽しく
いつも奨学金ありがとうございます。毎日楽しく学校生活を送っているみたいです。部活に学校生活、楽しく友達や先生とすごせている様子を聞くことが、楽しい毎日です。(高2女子 母)

全道大会に
努力も実り、テニスで全道大会に出られることになりました。奨学金は部費や遠征費用等に使わせていただいています。本当にありがとうございます。(高1男子 母)

地域の雇用を守り、働きやすい職場を実現する

雇用への取組

職員のやりがいとなる 大規模な待遇改善を実施

雇用の問題は、地域の過疎化と深く結びついています。地域の雇用を守ることは、人を定着させて地域そのものを守ることにもつながります。また、人口減少は同時にさまざまな職場の人手不足にもつながるため、事業継続のためには職員が働きやすい職場を実現し、選ばれる職場とならなければいけません。

コープさっぽろは、地域の問題につながるさまざまな雇用の問題に取り組んでいます。2016年度は待遇改善に取り組み、総合職員を中心に約1,300人の給与改善を行いました。

また、経験のあるパート職員の活躍の場を増やすため、2014年度から65歳まで定年を延長して継続雇用し、2016年からは手当類が通常のパート職員と同一の扱いになるよう制度を変更しました。以降もシニア層の雇用問題に取り組んでいく予定です。

障がい者雇用4.0%達成 今後は働きやすい職場づくりへ

特に力を入れている障がい者雇用は、法定の義務では雇用率2.0%のところ4.0%の達成を目指し、店舗や宅配センター、エコセンターで積極的な採用を続けてきました。2016年度は雇用率4.1%とついに目標を達成しました。この雇用率は東洋経済誌2015年CSR企業総覧では全国8位、道内企業ではトップとなっています。今後はさらなる雇用率アップとともに、「障がい者と共に働く」バイブルの作成など、障がい者職員が働きやすい職場づくりに取り組めます。

■2016年度実績

障がい者雇用	
人数	328名
雇用率	4.1%(前年比0.6%増)



日本の技能を海外へ 外国人研修生を受け入れ

コープさっぽろでは、石狩・江別両食品工場で、外国人技能実習生の受け入れを行っています。実習生は中国とベトナムから訪れており、専用の寮を完備。就業前に研修を実施して工場のルールや衛生管理などを徹底して指導した後、各工場ラインで実務教育を行います。ベトナムからの実習生が増えていることもあり、ベトナム語版の業務基準書や、その動画版の作成も進めています。

また、実習生が職能を身につけるだけでなく、日本の文化にも触れることができるよう工夫しています。江別工場では、休日を利用して江別市や自治会との協力で日本語学習会を開催したり、市・国際交流センターの催し物に実習生が参加できるようにしています。



就業前研修の様子(石狩食品工場)



実務研修で技能を身につけます



休日に茶道など日本文化を楽しむ機会を設けています(江別食品工場)

■2016年度実績

外国人技能実習生受入れ数	
石狩食品工場	113名
江別食品工場	24名

事業を支える組合員へ利益を還元

出資優待サービス

コープさっぽろの事業は、組合員の皆さんからお預りした出資金によって支えられています。創立50周年を機に、出資金を長く、多くお預けいただいている組合員の方々に感謝を込めて、出資金を対象とした優待サービスを2016年3月より開始しました。

1年間の平均出資金額が10万円以上の場合、平均出資金額に応じた特典ポイントが付与されます。付与されたポイントは店舗での割引やちよこっとカードへのチャージ、宅配トックの支払、出資金の増資などに利用できます。このサービスは2017年度も継続して実施します。



平均出資金額	付与ポイント
10万円	750ポイント
30万円	2,250ポイント
50万円	3,750ポイント
100万円	7,500ポイント
300万円	22,500ポイント
500万円	37,500ポイント

2016年度実績

対象組合員数	58,819名
総付与ポイント	132,420,000

家庭に火の用心を呼びかけ防火意識を高める

暮らしの火の用心協力隊

札幌市では、火災予防広報活動などに協力する企業・団体を「暮らしの火の用心協力隊」として登録しています。登録企業・団体と行政が連携協力し、防火を啓発することによって、より安全・安心な暮らしの輪を築こうとするものです。

コープさっぽろは、2016年11月4日に登録を行いました。宅配トックを通じて組合員家庭に防火ちらしを配布するほか、高齢者世帯には特に「あんしんサポーター」(P9参照)が声かけを行い、火の用心を呼びかけています。



中学生・高校生に平和の大切さを伝える

平和スタディツアー

コープさっぽろでは子どもたちに平和を考える機会をつくるため、毎年8月に広島、長崎を中学生・高校生が訪れる平和スタディツアーを実施しています。

2016年度は、多くの組合員の方々から約225万円の募金協力をいただき、全国各地から、希望に応じ広島のツアーへ7名、長崎へ6名の中学生・高校生が参加しました。参加者は被爆地で学んだだけでなく、そこで得た教訓をそれぞれ全校集会や地域の報告会で発表し、平和への願いを広めることができました。



北海道連続台風被害に対する緊急募金を実施しました

北海道ではこれまでに経験したことのない連続台風7・11・9・10号の直撃は、各地に甚大な被害をもたらしました。コープさっぽろでは、これらの連続台風による被害と、被災された方々を支援するために2016年9月14日から10月20日まで、店舗・宅配を通じ緊急募金活動に取り組んできました。緊急募金は総額14,937,823円が集まり、北海道災害義援金募集委員会を通じて被災地に届けられました。

2016年度

環境活動報告

コープさっぽろは2008年の洞爺湖サミットを機に、環境活動を一層推し進めています。

事業活動の環境負荷を減らす取組はもちろんのこと、組合員に環境問題を伝えて意識を高め、共に活動を進めることで、事業活動そのものが環境に役立つしくみづくりを考え、進めています。

環境理念

コープさっぽろは、組合員への「7つのお約束」を基本にして、組合員、役員が共に手を携えて「暮らしの安心」と「より豊かな暮らし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムドック・共済などの事業を通じ組合員に安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、北海道全体の豊かな暮らしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

- ① 事業における汚染の予防に取組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- ② 環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。
- ③ この方針を全役員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。
- ④ この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取組について定期的に公表します。

- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取組みます。
- 組合員の声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取組みます。



環境活動トピックス

2016年度も環境活動を推進し、事業活動の環境負荷を低減する取組、組合員の環境意識を高める取組を行いました。その一部をご紹介します。

Topic 1

ホッキョクグマ応援プロジェクト

動物園と協力し、ホッキョクグマを守る気持ちから環境意識を育てる

コープさっぽろでは宅配システムドックのイメージキャラクターがシロクマであることにちなみ、道内4動物園と「ホッキョクグマ応援プロジェクト」を協働で進めています。絶滅危惧種であるホッキョクグマへの理解を深めることで、環境意識を高めることが目的です。4動物園には協賛金を贈呈し、園内への啓発パネル設置や環境教育イベントを実施しています。

2009年からは「エコプロジェクト商品」1品の売上げに対し2円を協賛金として本プロジェクトとコープ未来の森づくり基金(右ページ参照)に使用する「エコ協賛キャンペーン」を実施しています。2016年度は10月1日～11月30日に実施し、3,557,702円の協賛金が集まりました。

■2016年度ホッキョクグマ応援プロジェクト協賛金

動物園(協定締結年月日)	贈呈式日時	協賛金額	事業内容
円山動物園(2009年4月27日)	6月28日	300万円	年間バスポート広報費 環境教育イベント コープ探検隊 環境教育イベント カメラ教室
旭山動物園(2013年4月27日)	7月7日	200万円	ドックパネル設置 環境教育イベント コープ探検隊 環境教育ツアー ボルネオ7日間
おびひろ動物園(2010年8月10日)	7月12日	200万円	ドックパネル設置 環境教育イベント コープ探検隊
釧路市動物園(2011年11月23日)	7月29日	200万円	ドックパネル設置 環境教育イベント コープ探検隊

コープ探検隊

2015年に円山動物園で実施した、園内探索型のイベント「コープ探検隊」を、2016年度は協定締結4動物園すべてで実施しました。内容をクイズラリー形式に変更し、まずは動物園でゲームブックを配布。それをクリアした後はコープさっぽろ全店舗での第二ステージに参加でき、最後の答えの正解者に記念品を進呈しました。クイズには自然や環境だけでなく、食についても学べる問題を加えました。

さらにエクストラステージとして、中央センターのドックステーション、8月13日～15日に実施した円山動物園ドックカフェで特別ミッションを実施。ドックフォトコンテストも対象とし、特別な賞品をプレゼントしました。



円山動物園ドックカフェ



配布したゲームブック

参加者数 11,378名(ゲームブック配布数)



体験プログラム 「冬だ!冒険だ!北極サバイバル体験」

本プロジェクトの一環として、環境教育イベント「冬だ!冒険だ!北極サバイバル体験」を全道8会場で実施しました。北極冒険家の萩田泰永さんをお迎えし、17年間で14回の北極行の経験と、2016年4月に行った北極単独歩行についてトークショーを開催。さらに、ソリ引きやGPSでの宝探し(函館会場以外)など、萩田さんが北極で行っていたことを「冒険体験」として実施しました。また、旭川・釧路2会場では、萩田さんと共に1泊2日の北極体験キャンプも開催しました。

この体験プログラムは、動物園のない地区でも公共施設などを利用して開催することにより、全道の皆さんに、北極の話を通して地球環境や野生動物について考えるきっかけを提供することができました。

■開催実績

日付	会場	参加者数
1月6日(金)	苫小牧 ウナイ湖野生鳥獣保護センター	28名
1月7日(土)	札幌 円山動物園	57名
1月8日(日)・9日(月・祝)	旭川 旭山動物園	53(17)名
1月10日(火)	網走 オホーツク流水館	34名
1月11日(水)・12日(木)	釧路 釧路市動物園	11(5)名
1月14日(土)	帯広 おびひろ動物園	33名
1月21日(土)	函館 函館アリーナ	29名
1月22日(日)	室蘭 道の駅みたら室蘭	28名
合計		273名

※参加者の()内は北極体験キャンプ参加者数



ソリ引き体験の様子



萩田泰永さん



トークショー終了後はサイン会も実施しました

コープ未来の森づくり基金

Topic 2

「第7回北海道の森づくり交流会」を開催

コープさっぽろでは、店舗でのレジ袋辞退に応じて基金を積立て、「コープ未来の森づくり基金」として森づくりにあてています。2016年1月28日、全道10会場で「第7回北海道の森づくり交流会」を開催し、200名の方に参加いただきました。

今回初の試みとして、昼食をはさんだ10:00～13:30で開催。特別講演は「人がつくる森 ～森林再生の可能性～」をテーマに速水林業株式会社代表の速水亨氏をお招きしました。速水氏は、所有林1,070haについて世界的な森林認証システムであるFSC(森林管理協議会)認証を日本で初めて取得するなど、先進的な経営で知られます。講演では、木は循環型の優秀な資源であることと、今後どのように日本の森林を育てていくか、速水林業での試みをお話いただきました。

第2部では、各地区で交流の時間を設け、参加団体と組合員が横につながる場づくりを行いました。今後も引き続き「あすもり」で、人と人をつなぐことを大切に未来へつなげる森づくりを行おうと心新たにしたい一日となりました。



環境活動トピックス

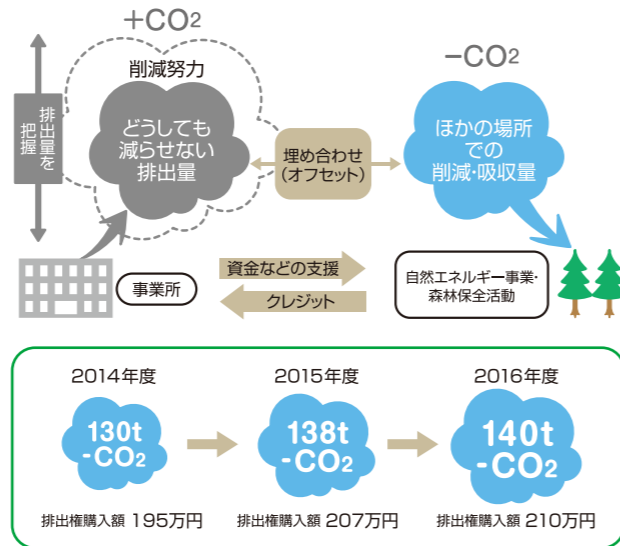
Topic 3 カーボン・オフセットの取組

オフセットを伴う環境学習ツアーを初開催

事業活動を行うことは、同時に何らかの形でCO₂を排出します。どうしても削減できないCO₂排出量の分を、森林保全活動(CO₂吸収)や自然エネルギー事業(CO₂削減)のプロジェクトに投資・支援することで、地球全体でのCO₂排出を減らすことをカーボン・オフセットといいます。

「北海道の森を元気にしよう!」キャンペーン

「北海道の森を元気にしよう!」キャンペーンは、2013年に始まったCO₂削減の取組で、北海道と包括連携協定を結ぶコープさっぽろとサッポロビール株式会社の共同企画です。キャンペーン対象商品として「北海道の森に乾杯!」オリジナルラベル商品を発売。その後対象商品をワインや炭酸飲料にも広げ、売上げ1缶につき1円分のCO₂約66g(ワイン1本につき10円分のCO₂約666g)をカーボン・オフセットし、道内の森林保全活動に貢献しています。さらに売上げの一部は「コープ未来の森づくり基金」に寄付し、森づくり活動にも活用されています。



環境学習ツアー 「ボルネオまなび旅」

2016年11月、マレーシアのボルネオ島で、自然環境の現状や環境保全への取組について学ぶツアーを実施しました。「ボルネオへの恩返しプロジェクト」に取り組んでいる旭山動物園の坂東園長の案内によるゾウのレスキューセンター見学や植樹、ホームステイなどを含む7日間のプログラムでした。

このツアーは「ホッキョクグマ応援プロジェクト」(P24参照)の一環として、旭山動物園への協賛金の一部を使用しています。また、ツアー代金にはカーボン・オフセット賛同金1,459円が含まれており、国際線フライトにより排出される一人あたりのCO₂相当量の全量をオフセットすることができます。



荒廃地やオイルパームの農園を森に戻すため植樹



害獣として殺されることもあるゾウを、森や他施設への移動まで保護する施設を見学

3名の計28名分、計28tのCO₂をオフセットしました。

その後2017年1月には、小学校4年～中学生のお子さんとその親(祖父母、高校生以上の親族も参加可能)を対象にした「冬休みボルネオまなび旅」を実施。さまざまな自然体験を取り入れたほか、地元の子どもたちとの交流も行いました。

Topic 4 トドックフリマ ～絵本・おもちゃ回収～

いらなくなった絵本やおもちゃを回収し販売

全道の宅配センターで、地域に開放されたコミュニティスペース「トドックステーション」が開設されています(P9参照)。現在、道内4か所のトドックステーション(札幌中央、清田、ひやま、中標津)で、組合員から回収した子ども服や絵本、おもちゃなどを安価で販売しています。収益金は全額、子どもたちが遊べる木のおもちゃの購入にあてられています。

絵本・おもちゃの回収は2016年3月から札幌圏の宅配センターで先行実施し、2017年3月から全道の宅配センターで開始しました。新規開設のトドックステーションでも販売し、限りある資源を道内で循環させます。もったいなくて捨てられなかったものが、次の子どもたちの笑顔につながるよう、回収量・販売量とも増加させることを目指します。

フリマ(販売コーナー)の様子

販売しているおもちゃ

絵本	867点
おもちゃ	722点
子ども服	677点

コープさっぽろの資源回収

コープさっぽろは、店舗や事業所から出る資源物のほか、宅配トドックの戻り便を利用して、組合員の家庭から出る資源物も回収しています。回収された資源物はエコセンター(江別市)に集め、必要な処理を行ってからリサイクルに回しています。回収量は毎年増加しており、2016年度は32,199tの資源物を回収しました。これは18,167tのCO₂削減に相当します。

■エコセンター回収量

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2015年比
ダンボール	16,456	16,291	16,294	16,870	16,617	16,991	17,602	104%
紙パック	302	313	307	289	292	280	283	101%
週刊トドック	6,293	6,673	7,427	8,262	8,950	9,948	11,041	111%
新聞紙	699	817	933	976	975	983	1,000	102%
発泡	474	471	467	416	384	411	388	94%
ペットボトル	58	57	61	60	58	61	66	108%
スチール缶	33	32	33	30	27	18	24	133%
アルミ缶	36	41	44	44	44	46	58	126%
PPバンド	40	36	37	41	40	42	44	105%
内袋	71	82	85	128	125	117	116	99%
廃食油	605	663	699	722	769	807	849	105%
古着古布	—	—	—	—	21	671	728	108%
合計	25,067	25,476	26,387	27,838	28,302	30,375	32,199	106%

古着回収の売上げを北海道ユニセフ協会に募金

2014年3月より、宅配トドックの資源回収で古着回収を行っています。回収した古着はカンボジアでのリユースや、工業用ぞうきんにリサイクルされています。2016年度もこの古着販売による売上のうち、150万円を北海道ユニセフ協会に募金しました。



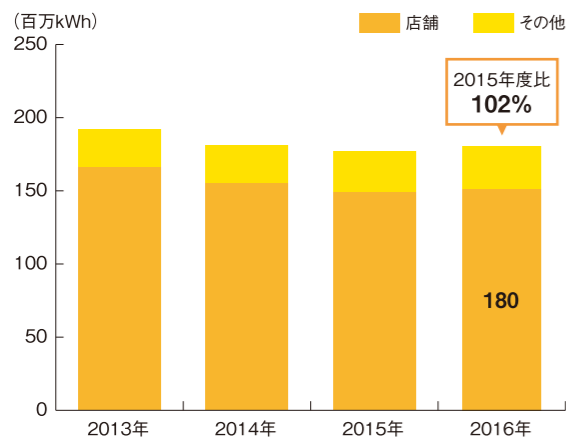


環境データ報告

地球温暖化防止のため、温室効果ガス、主にCO₂排出量の削減は世界的な課題です。CO₂はエネルギー使用によって排出されるため、コープさっぽろは省エネルギーと、再生可能エネルギーの積極的な利用に取り組んでいます。

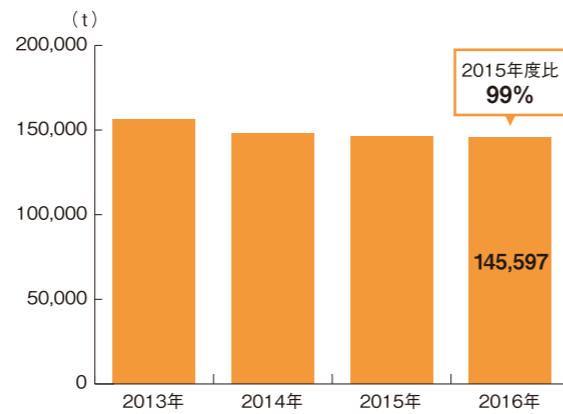
電気使用量

小型店2店舗の建替えなどにより使用量は増えましたが、CO₂排出係数の低い電気の購入を進めています。



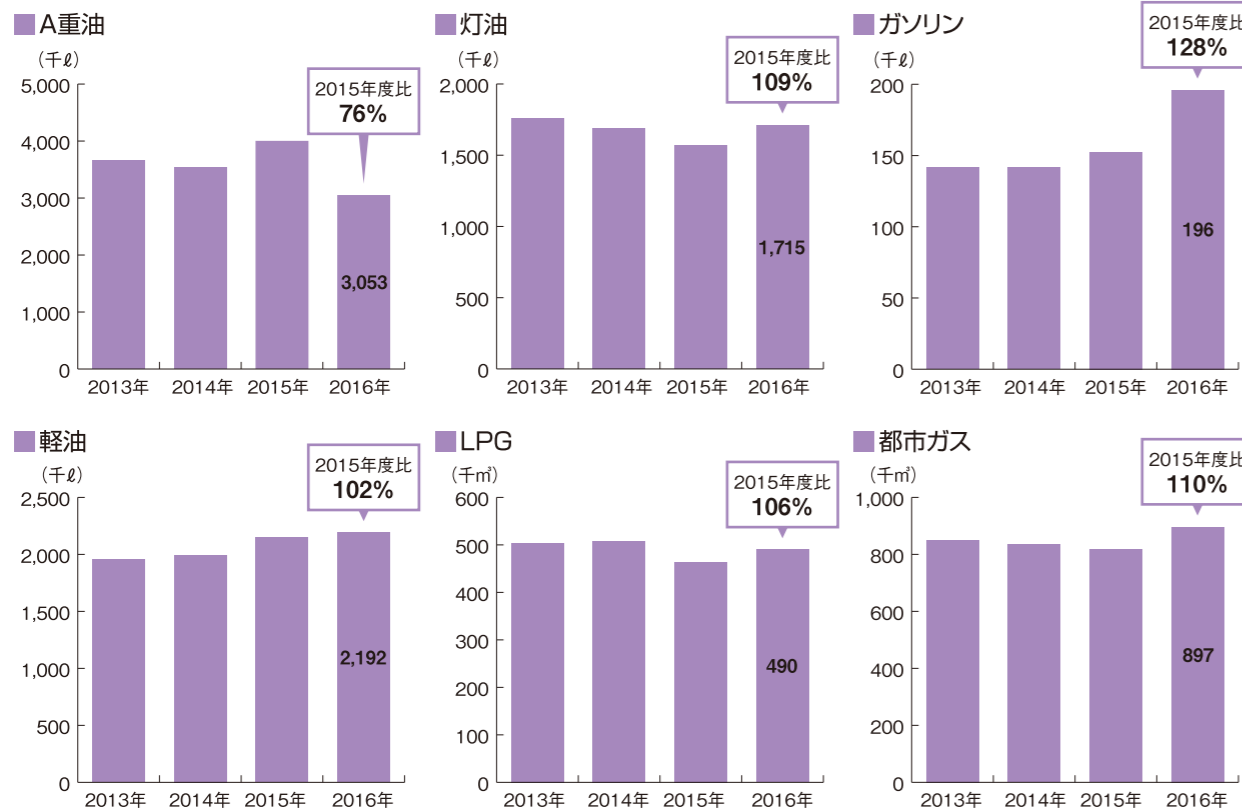
CO₂排出量

基本照明のLED化による電気使用量の削減し、店舗のショーケースの清掃を継続実施し、省エネ化とクリーンネスの向上を図っています。総排出量は15年度比99%と削減されています。



エネルギー使用量(電気以外)

環境負荷の少ないエネルギー源へと使用を順次切り替えています。



コープさっぽろの組織概要

COOP SAPPORO OUTLINE

2016年4月12日、コープさっぽろは組合員160万人を達成しました。

創立50周年を機に、新たな理念の合い言葉を設け、北海道の地域社会と、皆さまの生活により貢献していくことを目指します。

コープさっぽろの新しいマーク



組合員や職員の強い願いや思いから生まれた新しい取組に掲げる、「安心」と「革新」の旗印です。安全・安心を感じ、新鮮で若々しく、生命力を感じるコープグリーンを全道中へと広げていきます。

コープさっぽろの伝言(新理念体系)

コープさっぽろの合い言葉	つなぐ
コープさっぽろの理念	北海道で生きることを誇りと喜びにする。
コープさっぽろの使命	「安心」と「革新」
各事業の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 「店舗」……………いのちの基本である「食」を大切にする。 「宅配トック」……………笑顔をとどけ、笑顔をいただく。 「移動販売車カケル」……………どこまでも買物の楽しさと便利さを載せて行く。 「社会給食」……………健康と成長を見つめる仕事。 「エネルギー」……………北海道で自立して持続可能な再生エネルギーを推進する。 「水工場」……………北海道のかけがえのない資産を預かっている。 「共済」……………助けあいの心を、ひとつにする。 「フリエ」……………家族のひとりとなり、家族のひとりをお見送りする。 「トラベル」……………人生という旅をさらに豊かにする。 「生活文化事業」……………学ぶ喜びを生涯の楽しみにする。
コープさっぽろが大切にすること	わかちあう ささえあう おもいあう たすけあう まなびあう ふれあう たたえあう

基本情報

名称	生活協同組合コープさっぽろ (生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更)
創立年月日	1965年(昭和40年) 7月18日
創業年月日	1965年(昭和40年) 10月1日
本部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員(常勤)	<ul style="list-style-type: none"> ●理事長 大見 英明 ●専務理事 中島 則裕 ●常務理事 岩藤 正和 ●常務理事 会田 彰 (2017年3月現在)
活動エリア	北海道全域(定款)
組合員数	1,654,657名(2017年3月20日) (北海道の世帯数 2,751,282世帯)(2016年1月末) 組合員組織率 60.1% (札幌市51.7%、旭川市70.4%、函館市69.4%、石狩市78.3%など)
出資金	678億8,931万円(2017年3月20日)
事業高	2,777億3,033万円(合計)(2016年3月21日~2017年3月20日) 1,902億7,424万円(店舗事業) 798億5,940万円(宅配事業) 17億935万円(共済事業) 58億8,734万円(その他)
従業者数	正規職員 2,096名 契約職員 1,487名 パート・アルバイト 10,263名 (2017年3月20日現在)

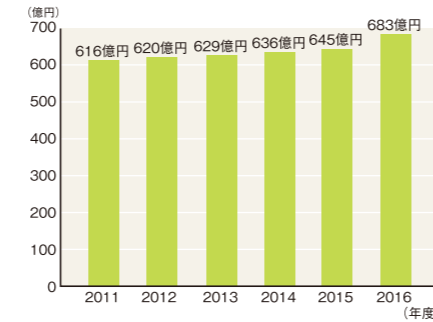
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

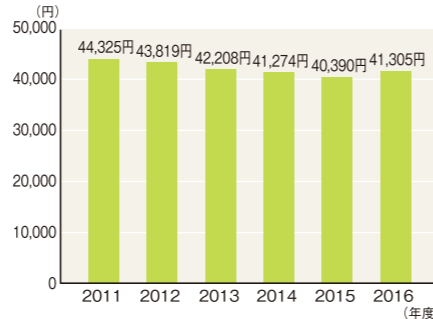
項目 年度	金額 (千円)	前年比 増加額 (千円)	増加率(%)	
			対前 年比	2011年度 基準
2011	61,680,589	2,436,303	104	100
2012	62,015,189	334,600	101	101
2013	62,917,555	902,366	102	102
2014	63,697,955	780,400	101	103
2015	64,466,901	768,946	101	105
2016	68,344,865	3,877,964	106	111

※上記出資金額には千円未満の預り金も含めて表示しています。
定款上の出資金(1口千円単位)は64,005,902千円です。

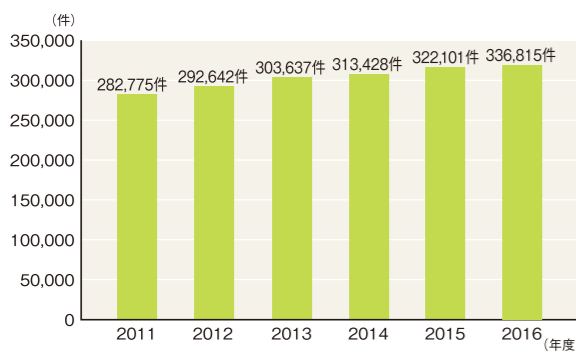
■年度別出資金残高



■1人当たりの平均出資金

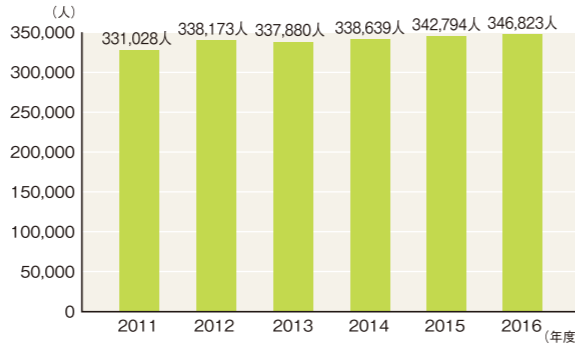


資料 宅配(トドック)の参加状況



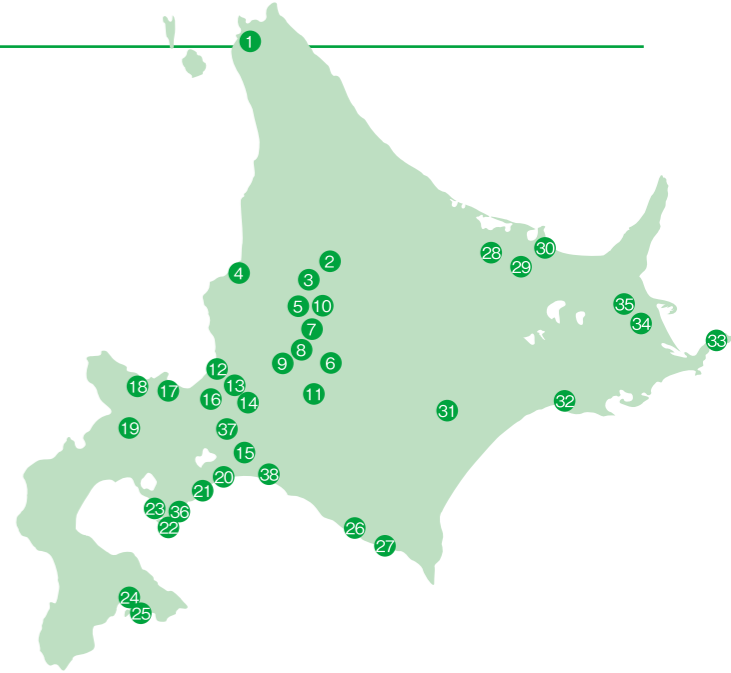
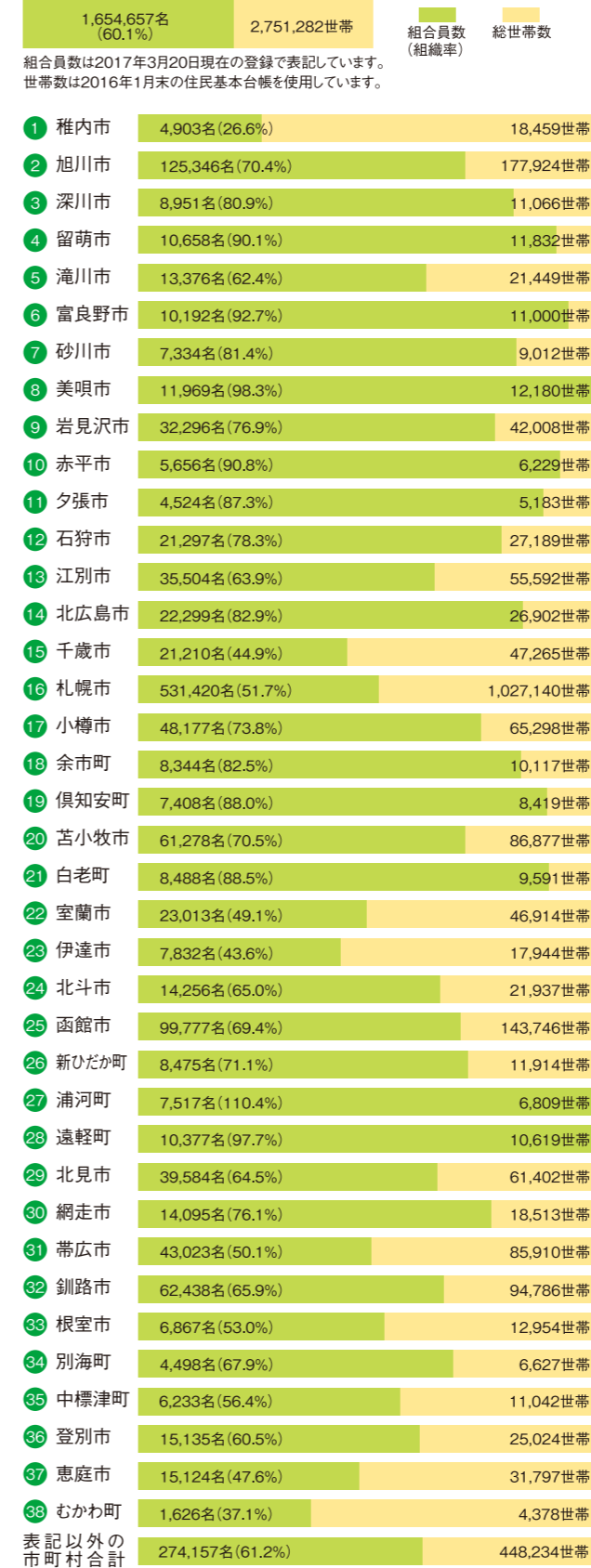
資料 CO-OP共済の状況

■《たすけあい》共済の加入者数



組合員動態

都市別組合員組織率

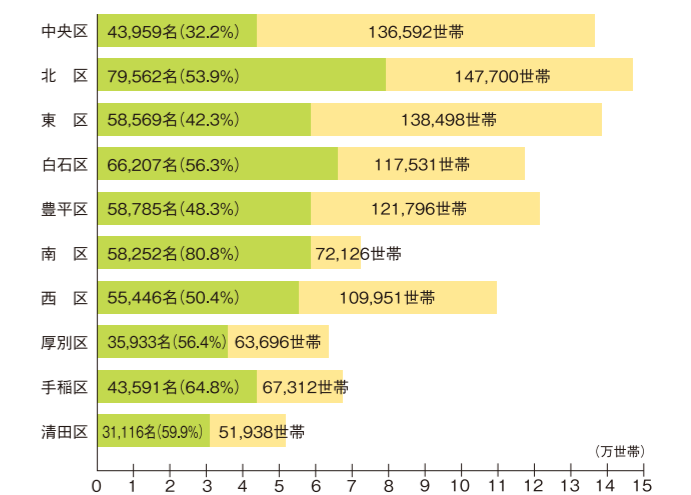


■年度別組合員動態

項目 年度	組合員数 (人)	前年比増加数 (人)	増加率(%)	
			対前 年比	2011年度 比較
2011	1,391,552	29,418	102	100
2012	1,415,265	23,713	102	102
2013	1,490,640	75,375	105	107
2014	1,543,280	52,640	104	111
2015	1,596,125	52,845	103	115
2016	1,654,657	58,532	104	119

※2011年3月20日、住所不明・未利用者1,249名を法定脱退処理しました。
 ※2013年3月20日、住所不明・未利用者995名を法定脱退処理しました。
 ※2014年3月20日、住所不明・未利用者696名を法定脱退処理しました。
 ※2015年3月20日、住所不明・未利用者308名を法定脱退処理しました。
 ※2016年3月20日、住所不明・未利用者176名を法定脱退処理しました。
 ※2017年3月20日、住所不明・未利用者434名を法定脱退処理しました。

■札幌市行政区別組合員組織率



事業所数と形態

本部

本部	1
地区本部	8(帯広、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川、札幌)

店舗

108店舗(2017年3月20日現在)28市18町					
札幌市	25店舗	留萌市	1店舗	白糠町	1店舗
江別市	2店舗	函館市	9店舗	中標津町	1店舗
北広島市	2店舗	北斗市	1店舗	北見市	3店舗
石狩市	1店舗	苫小牧市	5店舗	網走市	1店舗
千歳市	2店舗	伊達市	1店舗	遠軽町	2店舗
小樽市	3店舗	木古内町	1店舗	美幌町	1店舗
余市町	1店舗	幕別町	1店舗	帯広市	2店舗
倶知安町	1店舗	むかわ町	1店舗	室蘭市	2店舗
岩見沢市	2店舗	白老町	1店舗	赤平市	1店舗
美幌市	1店舗	新ひだか町	1店舗	別海町	1店舗
夕張市	1店舗	浦河町	2店舗	登別市	3店舗
旭川市	8店舗	えりも町	1店舗	恵庭市	1店舗
深川市	1店舗	様似町	1店舗	福島町	1店舗
砂川市	1店舗	釧路市	6店舗	羽幌町	1店舗
滝川市	1店舗	根室市	1店舗		
富良野市	1店舗	釧路町	1店舗		

コープ宅配システムドックセンター

31センター3デポ(2017年3月20日現在)

生産工場

江別生鮮加工センター
石狩食品工場
江別食品工場
配食札幌工場
配食苫小牧工場
配食旭川工場
配食釧路工場

リサイクル施設

エコセンター

葬儀場

フレアホールつきさむ

関連会社

コープフーズ株式会社
シーズ協同不動産株式会社
シーズ協同開発株式会社
株式会社エネコープ
コープ協同保険株式会社
北海道はまなす食品株式会社
デュアルカナム株式会社
有限会社コープ協同サービス
有限会社ドリムファクトリー
株式会社大雪水資源保全センター
北海道ロジサービス株式会社
コープトレーディング株式会社
株式会社ドック電力
株式会社コープトラベル

2016年度の新工事

2016年11月	中標津センター(移転)
	ひやまセンター(移転)
2016年12月	ほんどおり店(リニューアルオープン)
	二十四軒店(リニューアルオープン)



▲二十四軒店(札幌)

第三者意見



北海道大学大学院農学研究院
教授

柿澤 宏昭氏

本年度のCSRレポートでは「北海道のコープさっぽろ」を特集として、主として食に関わる取組が紹介されています。私がこれを読んで重要と感じたことは、農業・地域・消費者のつながりをつくるなかで、農業・地域を元気にし、それを支える消費者が食を楽しみながら健康な生活を送れるようにしていることであり、またそのつながりを深化させていることです。

例えば「畑でレストラン」の取組は、農業者と消費者を、一流シェフを媒介にして結びつける魅力ある取組ですが、さらに市町村を巻き込むことでまちづくりとの連携をつくらうとしています。農業者との通常の事業を通したつながりを規格外野菜の流通などへと広げています。またこうした取組を支える消費者を食育の中で育ててきています。協同組合が得意とする“人のつながりづくり”を進める中で食を豊かにし、豊かな北海道づくりに貢献しようとしていることを強く感じます。

また、大学で教える者として、返済不要の奨学金制度の発足はとてありがたい取組で、コープさっぽろの社会貢献活動の幅広さを感じました。

こうした素晴らしい取組の意義をさらに広め、発展させていくために期待したいことが二つあります。

CSRレポートでは環境報告書が別建てになっていますが、前述の食に関する取組はまさに環境貢献にもつながっています。農業や農村は、国土を守り、良

好な景観をつくるなど多面的機能を持っており、食・農を守る取組は北海道の環境を守る取組といえます。「畑でレストラン」の取組を地域との連携へと発展させようとしていることは、農山村を元気にし、地域環境・景観の保全にも貢献できる可能性を持った取組だと思います。社会貢献と環境貢献を一体的なものとして、そのなかに取組を位置づけて発展させていただければと思います。

もう一つはCSR活動の担い手について光を当てていくことです。私は「コープ未来の森づくり基金」の活動に関わらせていただいているのですが、そこではコープのスタッフはもちろんのこと、組合員の方々が参加し、活動を通して学び、運動を担うようになっていること、また活動に共感する外部の専門家の方々からさまざまな支援をいただいて活動が進展していることを実感しています。組合員をはじめとした多様な人々によって運動が発展してきていることは、他の事業体と異なるコープのCSR活動の大きな特徴ですので、今後もこの特徴を生かして活動を進めていただければと思います。

CSRレポートでは「つなぐ」という言葉がキーワードとなっています。つながりをより広げ、深めるなかで、明日のコープさっぽろをつくり、北海道の地域づくりに貢献することを期待しています。